

**製品名: ATP5I ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07335**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	8kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ATP5I
別名	ATP5I; ATP5K; ATP synthase subunit e; mitochondrial; ATPase subunit e
遺伝子 ID	521.0
SwissProt ID	P56385
免疫原	抗血清はヒト ATP5I 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 20-69

**背景**

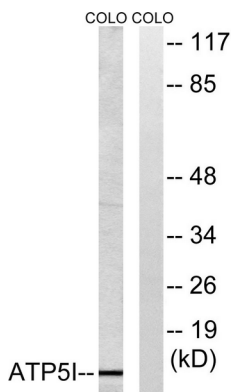
ミトコンドリア ATP 合成酵素は、酸化的リン酸化反応中に内膜を横切るプロトンの電気化学的勾配を利用して ATP 合成を触媒します。この酵素は、可溶性の触媒コアである F1 と、プロトンチャンネルを構成する膜貫通構成要素である Fo という、2つの連結した多

サブユニット複合体で構成されています。F1 複合体は、5つの異なるサブユニット ( $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $\delta$ 、 $\epsilon$ ) から構成され、 $\alpha$ サブユニット3個、 $\beta$ サブユニット3個、および他の3つのサブユニットを代表する1個の比率で組み立てられています。Foは9つのサブユニット (a、b、c、d、e、f、g、F6、8) から構成されていると考えられます。この遺伝子は、Fo複合体のeサブユニットをコードしています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2010年6月]、機能: ミトコンドリア膜ATP合成酵素 (F(1)F(0) ATP合成酵素または複合体V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADPからATPを生成する。F型ATPaseは、膜外触媒コアを含むF(1)と、膜プロトンチャネルを含むF(0)の2つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で互いに結合している。触媒作用の間、F(1)の触媒ドメインにおけるATP合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトン転座と結合している。複合体F(0)ドメインの一部。膜上でサブユニットaと共に位置するマイナーサブユニット。類似性: ATPase eサブユニットファミリーに属する。サブユニット: F型ATPaseは、触媒コアであるCF(1)と膜プロトンチャネルであるCF(0)の2つの構成要素から構成される。CF(0)は、a、b、c、d、e、f、g、F6、8 (またはA6L) の9つのサブユニットから構成されると考えられる。

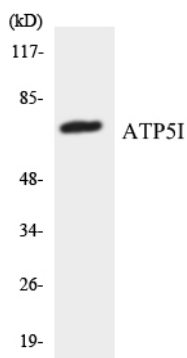
## 研究分野

酸化的リン酸化;

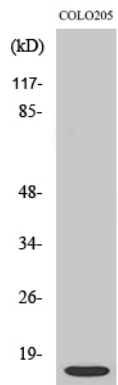
## 画像データ



COLO細胞ライセートのATP5I抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ATP5I抗体を使用した293細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ATP5I ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析